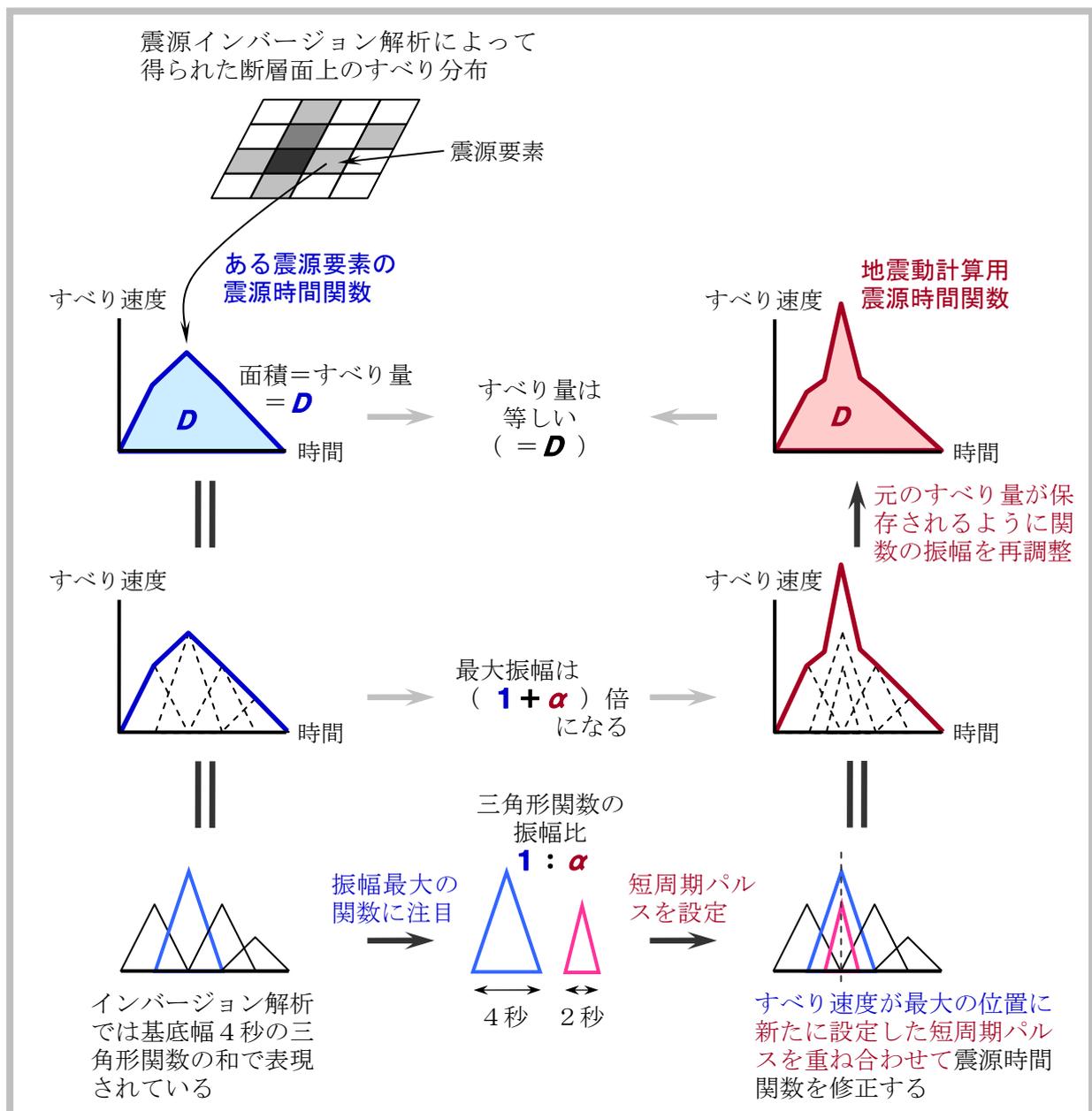


付録 3. 震源時間関数への短周期パルスの付与方法

本文 4.2 節に示したように、本検討では、周期約 5 秒以上で有効な前イベント震源モデルを基に周期約 2 秒までの地震動を計算することを目指し、Miyake *et al.* (2001) に倣って、基本モデルの各震源要素の震源時間関数に基底幅 2 秒の三角形パルスを付与しました。その方法について、以下に図解します。各震源要素の三角形パルスのパラメータ α の値は、計算された地震動主要動の周期 2 秒以上での比較的短周期帯域の振幅レベルが概ね観測記録と良く対応するように決められます。断層面は、相対的にすべりが大きな複数の領域に分けられ、それぞれの領域内では同じ α の値で三角形パルスが付与されます。なお、それ以外の相対的にすべりの小さな領域では、三角形パルスは付与されません。



付図 3.1 短周期パルスの付与方法

引用文献

Miyake, H., T. Iwata, H. Sekiguchi, and K. Irikura, 2001, Appropriate slip velocity time function of on-/off-asperity for broadband ground motion simulation, Eos Trans. AGU, 82 (47), Fall Meet. Suppl., Abstract S42C-0677.